

特別討論会テーマ：分析化学が実現する未来社会

企画担当：分析化学会 中部支部

湯川 博（名古屋大学）

分析化学は物質の構成成分の種類・存在量の解析に加え、どのような性質や機能を有するかを解析するための方法を研究する学問であり、物理学、生物学、工学、医学、薬学などの原理や考え方を柔軟に取り入れることで発展してきました。そして、現在では、企業における製品開発や評価をはじめ、医療・健康計測、環境評価、食品検査、犯罪捜査など私たちに生活に密着した様々な場面で重要な役割を果たし、人類の発展と社会の安全・安心に大きく寄与しています。

本討論会では、「分析化学が実現する未来社会」と銘打ち、第一線の分析化学の研究者をお招きして、生体分子を対象にした計測技術を中心に最新の研究成果をご紹介頂くとともに、これら最先端分析技術が実現する未来社会について議論して頂きます。

招待講演 2 件

(1) 村上 裕 教授（名古屋大学 大学院工学研究科）

「TRAP 提示法を用いた迅速な人工抗体創製」

(2) 池田 将 教授（岐阜大学 大学院自然科学技術研究科）

「モジュール型人工分子－生体分子ハイブリッドの環境応答機能発現」

依頼講演 2 件

(1) 新岡 宏彦 特任准教授（大阪大学 データビリティフロンティア機構）

「深層学習とバイオメディカル画像データへの応用」

(2) 竹内 司 主任研究員（島津製作所 分析計測事業部）

「o-SWCNTs 近赤外蛍光イメージングプローブの生体内挙動を評価した多角的分析」

* 特別討論会における一般講演の募集なし。